

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成18年11月2日(2006.11.2)

【公表番号】特表2005-538719(P2005-538719A)

【公表日】平成17年12月22日(2005.12.22)

【年通号数】公開・登録公報2005-050

【出願番号】特願2004-536265(P2004-536265)

【国際特許分類】

C 1 2 N	15/09	(2006.01)
C 1 2 N	1/15	(2006.01)
C 1 2 N	1/19	(2006.01)
C 1 2 N	1/21	(2006.01)
C 1 2 N	9/12	(2006.01)
C 1 2 N	9/96	(2006.01)
C 1 2 Q	1/68	(2006.01)
C 1 2 N	5/10	(2006.01)

【F I】

C 1 2 N	15/00	Z N A A
C 1 2 N	1/15	
C 1 2 N	1/19	
C 1 2 N	1/21	
C 1 2 N	9/12	
C 1 2 N	9/96	
C 1 2 Q	1/68	A
C 1 2 Q	1/68	Z
C 1 2 N	5/00	A

【手続補正書】

【提出日】平成18年9月15日(2006.9.15)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

以下からなる群より選択されるアミノ酸に対応する位置で1つまたはそれ以上の改変または変異を有する、変異逆転写酵素であって、50 で、40 で合成される量の少なくとも50%の全長cDNAを合成する逆転写酵素：

- (a)M-MLV逆転写酵素のロイシン52;
- (b)M-MLV逆転写酵素のチロシン64;
- (c)M-MLV逆転写酵素のリジン152;
- (d)M-MLV逆転写酵素のヒスチジン204;
- (e)M-MLV逆転写酵素のメチオニン289;
- (f)M-MLV逆転写酵素のスレオニン306; および
- (g)M-MLV逆転写酵素のフェニルアラニン309。

【請求項2】

40 で合成される量の少なくとも70%の全長cDNAを50 で合成する、請求項1記載の逆転写酵素。

【請求項3】

40で合成される量の少なくとも80%の全長cDNAを50で合成する、請求項1記載の逆転写酵素。

【請求項4】

40で合成される量の少なくとも90%の全長cDNAを50で合成する、請求項1記載の逆転写酵素。

【請求項5】

逆転写酵素がM-MLVである、請求項1記載の逆転写酵素。

【請求項6】

以下からなる群より選択されるアミノ酸に対応する位置で1つまたはそれ以上の改変または変異を有する、変異逆転写酵素であって、52.5で、40で合成される量の少なくとも20%の全長cDNAを合成する逆転写酵素：

- (a)M-MLV逆転写酵素のロイシン52;
- (b)M-MLV逆転写酵素のチロシン64;
- (c)M-MLV逆転写酵素のリジン152;
- (d)M-MLV逆転写酵素のヒスチジン204;
- (e)M-MLV逆転写酵素のメチオニン289;
- (f)M-MLV逆転写酵素のスレオニン306; および
- (g)M-MLV逆転写酵素のフェニルアラニン309。

【請求項7】

40で合成される量の少なくとも40%の全長cDNAを52.5で合成する、請求項6記載の逆転写酵素。

【請求項8】

40で合成される量の少なくとも50%の全長cDNAを52.5で合成する、請求項6記載の逆転写酵素。

【請求項9】

40で合成される量の少なくとも60%の全長cDNAを52.5で合成する、請求項6記載の逆転写酵素。

【請求項10】

逆転写酵素がM-MLVである、請求項6記載の逆転写酵素。

【請求項11】

以下からなる群より選択されるアミノ酸に対応する位置で1つまたはそれ以上の改変または変異を有する、変異逆転写酵素であって、55で、40で合成される量の少なくとも1%の全長cDNAを合成する逆転写酵素：

- (a)M-MLV逆転写酵素のロイシン52;
- (b)M-MLV逆転写酵素のチロシン64;
- (c)M-MLV逆転写酵素のリジン152;
- (d)M-MLV逆転写酵素のヒスチジン204;
- (e)M-MLV逆転写酵素のメチオニン289;
- (f)M-MLV逆転写酵素のスレオニン306; および
- (g)M-MLV逆転写酵素のフェニルアラニン309。

【請求項12】

40で合成される量の少なくとも5%の全長cDNAを55で合成する、請求項11記載の逆転写酵素。

【請求項13】

40で合成される量の少なくとも10%の全長cDNAを55で合成する、請求項11記載の逆転写酵素。

【請求項14】

40で合成される量の少なくとも20%の全長cDNAを55で合成する、請求項11記載の逆転写酵素。

【請求項 15】

逆転写酵素がM-MLVである、請求項11記載の逆転写酵素。